

【医学部 ディグリー・ポリシー】

岡山大学医学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下の学士力を基本的に修得した学生に学位を授与する。

人間性に富む豊かな教養【教養】

医療人、医学・保健学研究者として世界の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけ、病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴、共感できる。

目的につながる専門性【専門性】

時代に応じた健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。

効果的に活用できる情報力【情報力】

自ら健康、医療、医学・保健学に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバル社会に向けて情報発信、情報共有ができる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

医療人、医学・保健学研究者としてのコミュニケーション能力を有し、グローバルマインドを持って、多職種医療チームの一員として責任を持った行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

世界に通用する医療人、医学・保健学研究者として、絶えず医療の質の向上に努め、自立して生涯に亘り自己の成長を追求できる。

【医学部 カリキュラム・ポリシー】

医学部ディグリー・ポリシーに掲げる学士力(人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯にわたる自己実現力)を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、医学・保健学研究者を育成するため、教養教育科目と専門教育科目とで構成される体系的なカリキュラムを提供しています。教育課程全体を通じた学修成果により、国家資格の受験資格を取得できます。学部カリキュラムは、大学院博士課程への進学や卒後研修に連動しており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成に取り組んでいます。

【医学部 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています(詳細は各学科の「教育内容・特色」を参照ください)。

求める人材

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点で相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です(詳細は各学科の「求める人材」を参照ください)。

入学者選抜の基本方針

各学科のアドミッション・ポリシーを参照ください。

【医学部医学科 ディグリー・ポリシー】

所定の期間在学し、学科の定める授業科目を履修して所定の単位を取得し、全国共用試験および卒業試験の基準点を満たし、以下の学士力を基本的に修得した学生に学位を授与する。

人間性に富む豊かな教養【教養】

医療人・医学研究者としての高い倫理観と幅広い国際的な教養、豊かな人間性を身につけ、病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴し共感できる。

目的につながる専門性【専門性】

医療人・医学研究者として必要な専門的知識と実践的能力を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。

効果的に活用できる情報力【情報力】

医学的情報を収集・分析し、的確な判断のもと課題解決にむけて正しく活用できるとともに、グローバル社会に向けて適正かつ効果的に情報発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

高い協調性のもとに世界に通用する専門職業人としての指導力を発揮し、多職種医療チームの一員として責任をもった行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり自己の成長を追求できるとともに、グローバルな社会のニーズに対応した持続可能な医療を実現できる。

【医学部医学科 カリキュラム・ポリシー】

(1) 教育課程の編成:

医学科ディグリー・ポリシーに掲げる学士力(人間性に富む豊かな教養, 目的につながる専門性, 効果的に活用できる情報力, 時代と社会をリードする行動力, 生涯にわたる自己実現力)を備え, 世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人, 医学研究者を育成するため, 医学教育モデル・コア・カリキュラムに提示されている教育内容を包含した 6 年一貫教育カリキュラムを構築しています。

(2) 教育・学修方法:

専門分野の教育では, 講義に加え, 演習・実習などの少人数教育の利点を生かした実践的な授業を多数設定しています。3 年次の「医学研究インターンシップ」では, 配属先の研究室(海外含)で最先端の研究に取り組み, 課題発見・問題解決能力を獲得します。全国共用試験(CBT・OSCE)を経て, スチューデントドクター認定後に実施する 5・6 年次の臨床実習では, 診療チームの一員として積極的に医療に参加する診療参加型臨床実習を行い, 医療人としての実践能力を身につけます。

(3) 学習成果の評価の方針:

講義の学習成果は, 授業の特性に合わせ, 試験・レポート・授業での課題等により, 演習や実習では, 課題の実施状況やレポート, ポートフォリオ等で総合的に評価します。医学研究インターンシップは, 日々の取り組み状況(ルーブリック評価)と, 研究成果の発表により評価します。臨床実習は, 各診療科の定める達成度評価(ルーブリック評価, mini CEX など)に従って評価します。

人間性に富む豊かな教養【教養】

高い倫理観と幅広い国際的な教養、豊かな人間性を身につけるため、1～2年次の教養教育に加え、専門教育では、1年次の「医学概論」、「臨床医学入門」で医学の概観と根本を学び、「プロフェッショナリズム・行動科学」で、医療人・医学研究者としての職業観を養います。2年次の「医学史」では医学を築いてきた先人に学び、さらに、3年次での「レギュラトリーサイエンス」、4年次での「生命倫理学」、「医事法」では、倫理的・法的観点から医療人・医学研究者に求められる素養を獲得します。さらに、4年次後半からの診療参加型臨床実習では、相手を理解する傾聴力と相手に寄り添う共感力を身につけます。

目的につながる専門性【専門性】

専門基礎科目と専門科目の螺旋型カリキュラムにより、1年次に生命科学の基礎を修得し、1年次後半～3年次に正常な人体の構造と機能、様々な病因によって引き起こされる病態、薬物反応等、医療人・医学研究者に必要な専門的知識を段階的に学びます。3年次には、海外を含む学内外の研究室で研究を実体験する「医学研究インターンシップ」で、グローバルな科学的思考力と対応力を育てます。4年次では、臨床医学と社会医学を学修し、4年次後半～6年次では、多職種医療チームの一員として海外臨床機関を含む臨床現場で診療参加型臨床実習を行い、世界に通用する職業的な知識・思考法・技能・態度の基本を実践的に身につけます。

効果的に活用できる情報力【情報力】

1年次に教養教育科目にて情報リテラシーの基礎を、2年次に「データサイエンス」にてデータリテラシーの基礎を学修し、3年次では「バイオメディカルデータサイエンス」にて医学に特化した情報の数理解析方法を学びます。また、効果的にグローバルな情報発信ができる能力を身につけるため、3年次初期に「基礎病態演習」を、4年次後半に「臨床病態演習」を履修し、情報活用能力を養います。4年次後半～6年次の参加型臨床実習では、疾患を判断・治療するための情報収集・分析を行い、社会的・心理的背景を考慮した全人的教育により、情報を正しく活用できる力を養います。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

1年次の「医学セミナー」では、自ら情報を収集し、主体的に課題解決に取り組みます。1～3年次に行う、「プロフェッショナルリズム・行動科学」と「地域医療体験実習」では、社会の現状と問題点を理解し、地域住民や多職種の医療従事者とのコミュニケーションを通して、医療人・医学研究者として高い協調性と社会性を育てます。さらに、4年次後半～6年次の参加型臨床実習では、スチューデントドクターとして多職種医療チームの一員となり、専門職業人としての知識・技術の獲得と、状況に応じた柔軟な対応力を養います。

生涯にわたる自己実現力【自己実現力】

1年次早期に医療・福祉の現場を自ら体験し、患者の傍らに居ること、共感的態度を学びます。1年次の「医学セミナー」、3年次の「基礎病態演習」、「医学研究インターンシップ」では、グローバルな社会の課題や問題点、ニーズに対する解決策を自ら考え、実行する力を養います。6年次では、選択制臨床実習による総合的な自己研鑽を通して、生涯にわたり自己の成長を追求できる医療人を育成します。

【医学部医学科 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

医師・医学研究者の育成には、科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。医学科の使命は、「医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医並びに医学研究者を養成し、もって人類の健康と福祉に貢献する」ことです。特色ある6年間の医学教育を経て、医学・医療の進歩、社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり社会へ貢献できる、世界に通用する医療人を育成します。

求める人材

医学科では、将来の医学・医療の担い手として次のような人材を求めています。

1. 医師に必要な使命感、豊かな人間性、高い倫理観、コミュニケーション能力を持っている人
2. 医学・医療の進歩に対応するために必要な、幅広い基礎的学力と語学力、問題解決能力を持っている人
3. 知的探究心が強く、とくに生命科学に対して深い関心を持っている人

高等学校において、論理的思考力を身につけ、筋道の立った文章を書き、自然科学の基礎知識と思考方法を習得しておくことが必要です。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

5教科7科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査等では数学・理科2科目・外国語(英語)を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。また面接により、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)

地域枠コースとして募集、選抜を行います。調査書・志願所信書等の書類審査と面接試験で、志望する各県の出願要件をみだし、各県が貸与する奨学金を受給していること。かつ当該県内での医療に従事する強い意思を確認し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。入学後の学修のため、5教科7科目の大学入学共通テストを課し、基準点(概ね780点)以上の者から選抜します。

・私費外国人留学生選抜

本学の定めた出願資格を満たしている者に対して、書類審査、日本留学試験(日本語、数学コース2、生物および他1科目理科)を課し、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力試験では数学・理科2科目・外国語(英語)を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

国際バカロレア資格(IB最終成績評価39/45点以上)を有し、日本語(言語Aで成績評価4以上又は、言語Bで成績評価HL(HIGHER LEVEL)6以上)、理科2科目および数学(所定の成績評価以上)を修得した者に対して、書類審査を行い、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力および医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・第2年次編入学(学士入学)

本学の定めた出願資格を満たしている学士に対して、書類(TOEFL-iBT成績証明含む)審査を行い、課題作文で論理的思考能力と生命科学に対する理解度を評価します。学力試験では生物学、科学英語を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査(数学、理科、外国語(英語)) 面接	☆	面接 調査書
学校推薦型選抜Ⅱ	◎	大学入学共通テスト	☆	面接 推薦書・志願所信書	☆	面接 調査書・推薦書・志願所信書

(注)◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

【医学部保健学科 ディグリー・ポリシー】

岡山大学医学部保健学科は、高い倫理観と豊かな人間性を備え、人々の健康増進のための高度な専門的知識・技能を取得した医療人を輩出します。また、旺盛な情報力と行動力を身につけ、医療人として医療の質の向上に努め、自己成長の図れる人材育成を目的とします。この目的を達成し、教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に、看護学専攻では学士(看護学)、放射線技術科学専攻および検査技術科学専攻では学士(保健学)を授与します。

人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】

世界で起こっている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として課題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】

あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関わる技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。

健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】

住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。

医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】

医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包摂性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。

生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】

患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で調和を保ち、医療の発展に貢献できる。

【医学部保健学科 カリキュラム・ポリシー】

【教育課程の編成】

医学部保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻があり、授業科目は大きく教養教育科目と専門教育科目に分かれています。科目は、医学部保健学科のディグリー・ポリシーに掲げる学士力を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる人材を育成するため、体系的に学べるよう提供しています。また、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成を意識した学修方法・学習成果の評価に取り組んでいます。

【教育学修内容】

1年次には、外国語、リベラル・アーツなどの教養教育科目に加え、医療の基本となる各専攻に共通する知識や技術について学びます。また、これに加えてそれぞれ専門のイントロダクションを学びます。また、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習も必修科目となっています。

2年次からは、教養教育科目を学びながら、一方で「講義」や「演習」・「実験」などの専門教育科目をより多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識や技術を学びます。2年次からの「講義」「演習」・「実験」では、能動的学修が多く取り入れられ、課題探究型学習が増えていきます。

3年次からは、より専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、多くの専攻で、本格的に附属病院等で臨地実習が開始されます。なお、2・3年次のいずれかで、4学期制を活用して留学・インターンシップなど長期間の学外活動にチャレンジできる機会も設けられています。

4年次には、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。さらに、開講される医療系学部共通科目においては、臨地実習とは視点の異なる医療の最前線や実際を学ぶ機会を提供し、専門性を高めます。4年生の後半には、それぞれの専攻が目指す国家資

格(看護師, 保健師, 診療放射線技師, 臨床検査技師等)の国家試験が行われ, 基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。大学教育としてのカリキュラムの成果は, 国家試験の受験に十分に耐え得るものになっています。

【学修方法】

教養教育科目においては, 幅広い分野から能動的に選んだ授業を通し, 学際的な基礎力を養います。専門教育科目では, 主体的な学びとしてアクティブラーニングやグループワークを取り入れた学修方法を実施しています。

【学習成果の評価】

講義・演習による学生の理解度は, 筆記試験や実技試験・レポートによって評価します。実験および実習に関する評価は, レポート, 態度などを総合的に評価しています。

「人間性に富む医療のための豊かな教養」を涵養するために

- 自然や社会の多様な問題に対して関心を持つ態度を育成するために自然科学のみならず, 豊富な社会科学・人文科学系の教養教育科目の中から多様な科目が受講できます。
- 論理的思考力・判断力・創造力を身につけるため, リベラル・アーツを重視するとともに, 情報処理科目も全員が履修できますし, 受講が奨励されています。
- 人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけるために, Humanities(人文科学)を重んじるとともに, 専門課程において, 医療者として相応しい人間性や倫理観を養うことができるような実習を行っています。

「あらゆる人々の健康推進のための専門性」を習得するために

- 患者に限らず, あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるために, 医学・保健学に共通する専門教育科目を, 主として1・2年次に配当しています。
- 科学の進歩を健康に関わる技術開発や問題解決に活用し, 社会に貢献できるようになるために, 各専攻の学問分野(看護学, 放射線医学, 臨床検査医学)の最新成果を学べる専門教育科目を3・4年次に配当するとともに, 卒業研究を行う中で, 自らがこうした技術開発につながるような専門分野をさらに深めることができるカリキュラムとなっています。

「健康ニーズに応え, 発信する情報力」を培うために

- 住民や患者の健康ニーズに応えるとともに, 自然や社会の情報を多角的に収集・分析する能力を身につけるために, 1年次に保健科学入門と情報処理科目が準備されています。また保健統計について学ぶ機会も設けられています。
- 分析した成果を地域や世界に向かって情報発信する能力を培うために, その基礎となる外国語科目を学ぶとともに, IT技術, コンピューター・リテラシーが身につく教養教育科目が準備されています。

「医療・保健に関するリーダーとしての行動力」を身につけるために

- 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力を身につけるために, ガイダンス科目「チーム医療演習」が1年次に配当されており, 座学では得られないコミュニケーションの力を涵養します。
- 世界に貢献できる国際感覚や言語力を身につけるために, ネイティブに学べる外国語科目を1・2年次に履修します。また地域住民とのコミュニケーションを図る能力を養える実習科目も, 一部専攻では準備されています。
- 個人として, また, チームとして時代と社会をリードする行動力を身につけるために, 卒業研究に代表される多くの演習科目の中で, スモールグループのリーダーや各種役割を担う機会が設けられています。

「生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力」を育成するために

- 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として, 生涯に亘って学び, 楽しみ, 自己実現をはかるために, スポーツ実習が用意されています。
- 参加型の実習により, 学生が目指す専門職(看護職, 臨床検査技師, 診療放射線技師等)に身近に接することで, そうした専門職業人が享受している文化やスポーツの一端をロールモデルとして体感でき, 自らの生き方の指針とできます。

【医学部保健学科 アドミッション・ポリシー】

教育内容・特色

医学部保健学科には、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻がありますが、3専攻に共通して、ヘルスケアの専門家になるべく、医学を包含する保健学について、段階的・体系的・包括的に学び、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成しています。そのことを通して、次のような能力の発展・向上を目指します。

- ・人間性に富む医療のための豊かな教養を身につける能力
- ・様々な健康状態にある人々の健康推進のための専門性を習得する能力
- ・健康ニーズに応え、効果的に活用できる情報を発信する能力
- ・医療・保健に関するリーダーとして行動できる能力
- ・健康的な生活を生涯にわたり自己実現する能力

医学部保健学科の教育内容には次の特色があります。

4年間かけて、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習や、保健学に関する専門教育科目を多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識を学びます。さらに、本格的に附属病院等で臨地実習を受け、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。

最終的には、それぞれの専攻が目指す国家資格(看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等)の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。

求める人材

本学での教育に必要な資質と基礎学力を有し、本学での主体的な学修を通じて持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共創する能力を身に付けることに強い意欲を持つ人、さらに以下のような人を、多様な入試方法により国内外から広く受け入れます。

- ・高い倫理観と豊かな人間性や感性をもつ人
- ・好奇心にとみ、自由な発想と知的探究心の強い人
- ・自らの課題に主体的に取り組み幅広く学ぶ意欲のある人
- ・他者への共感と洞察力を備え、細やかな心遣いのできる人

入学後の学修に向けて高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力、論理的な思考力と分析力を養ってください。生命や複雑な自然現象を理解するために総合的な科学的思考能力も身につけてください。

入学者選抜の基本方針

・一般選抜(前期日程)

5教科7科目の大学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。個別学力検査では、それぞれの専攻に応じた科目(看護学専攻では外国語、放射線技術科学専攻では数学・理科・外国語、検査技術科学専攻では理科と数学もしくは外国語)を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。また面接により、目的意識、自己表現力やコミュニケーション能力など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に判断します。

・総合型選抜

大学入学共通テストについては、希望する専攻の専門をふまえて5教科5科目又は6科目、5教科7科目、4教科6科目を課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。書類審査では、調査書ならびに自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に評価します。また面接(口述試験を含む)により、大学で学ぶ

専門領域についての関心や意欲，自己表現力，コミュニケーション能力など，医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。さらに，看護学専攻・放射線技術科学専攻では小論文(模擬講義を踏まえて)により，論理的思考力・判断力・理解力，文章力や表現力を評価します。検査技術科学専攻では総合問題により，基本的な理科的知識及び医療や生命科学に関連する英文を用いて基礎的英文読解能力や科学的思考能力を評価します。

・社会人選抜

書類審査では，調査書・履歴書ならびに志望理由書を通して，専門領域についての関心と学習意欲を判断します。また面接(口述試験を含む)により，大学で学ぶ目的意識と意欲，自己表現力，コミュニケーション能力など，医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。さらに，看護学専攻・放射線技術科学専攻では小論文(模擬講義を踏まえて)により，論理的思考力・判断力・理解力，文章力や表現力を評価します。検査技術科学専攻では総合問題により，基本的な理科的知識及び医療や生命科学に関連する英文を用いて基礎的英文読解能力や科学的思考能力を評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験を課し，基礎的な日本語能力を評価します。学力検査では日本人受験生と同一の数学(看護学専攻では数学を課さない)，理科2科目(看護学専攻では理科を課さない)及び外国語(英語)を課し(検査技術科学専攻では数学または外国語のどちらかを選択)，基礎的知識，応用力，理解度を評価します。

面接では大学で学ぶ目的意識と意欲，自己表現力やコミュニケーション能力など多面的な質問を行い，医療・保健の専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

書類審査により，成績評価証明書，自己推薦書，評価書を通して，基礎学力，自己表現力，意欲を評価します。また面接では，医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜(前期日程)	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査(看護:外国語, 放射:数学・外国語・理科, 検査:理科・数学もしくは外国語), 面接	☆	調査書 面接
総合型選抜	○	大学入学共通テスト 総合問題※検査 英語資格・検定試験成績 (任意)	◎	小論文(模擬講義を踏まえて) ※看護, 放射 総合問題※検査 面接(口述試験を含む)	○	調査書, 自己推薦書 面接

(注)◎は特に重視する要素，○は重視する要素，☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は，「主とする資料」であり，それ以外の要素でも活用する場合がある。